

いろいろなメンコ

メンコは、江戸時代、粘土を小さな顔の形に抜いて焼いたもので遊んだのが始まりと言われ、明治 30 年代より紙製のものが登場しました。メンコに描かれているのは、当時子ども達に人気のあったもので、よく世相をあらわします。このセットではその変化が追えるようになっています。

1. 丸メンコ（明治時代）…秀吉や義経などの武将が人気。「鉄砲」「庄屋」の語はメンコをつかって狐拳（ジャンケン的一种）をするときのもので、庄屋は狐に負け、狐は鉄砲に負け、鉄砲は獺師に負け、獺師は庄屋に負ける。
2. 丸メンコ（昭和 30 年代）…ミシン目に沿って丸く抜いてから遊ぶ。美空ひばり、片岡千恵蔵、鞍馬天狗、マルクス兄弟（米国の俳優）など。ジャンケンと狐拳の表記入り。
3. 角メンコ（昭和 30 年代）…切り抜いて遊ぶ。石原裕次郎、デン助（大宮敏光）などの映画俳優、漫画からテレビ番組になったオトウさんなどが描かれている。
4. 角メンコ（昭和 40 年代）…月光仮面、赤道鈴之助、バットマンなど、テレビアニメの主人公が多い。
5. 角メンコ（昭和 50 年代）…テレビアニメのキャプテン翼、キン肉マン、ガンダム。裏面はジャンケンや野球遊びの表記。



1. 丸メンコ
（明治時代）



2. 丸メンコ（昭和 30 年代）

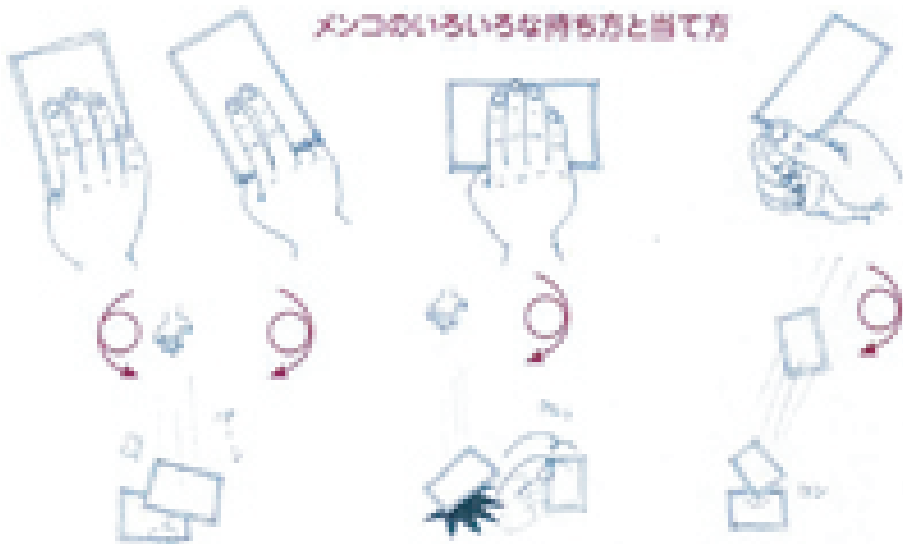
3. 角メンコ（昭和 30 年代）

5. 角メンコ（昭和 50 年代）



4. 角メンコ（昭和 40 年代）

メンコのいろいろな持ち方と当て方



いろいろなコマ

日本のコマは大陸から伝えられたといわれ、実物としては7世紀の藤原京跡から木製コマが出土しています。現在でも全国各地に郷土色豊かなコマが残っていますが、ここでは最もポピュラーなものを紹介しています。

1. **ベーゴマ（体験用）**… 鋳鉄製。関東及び関西を中心に遊ばれていたコマ。大きさや背の高さによって「高王様」「中高」「ペチャ」などの種類があります。上面には模様のほか、子どもに人気のあった人物名を鋳出しています。背が低いと回しにくいのですが、ベーゴマ同士のけんかでは、背が高いものより重心が低い方が有利となります。
2. **バイゴマ**… ベーゴマのもととなったコマで、バイ貝で作ったコマです。この語が変化して「ベーゴマ」となりました。江戸時代にはよく遊ばれていましたが、明治時代に鋳鉄製のものが出回ると姿を消しました。貝の中に鉛の重りを入れ、ロウで蓋をしています。
3. **バイ貝のひねりごま**… バイ貝で作ったコマで、心棒を親指と人差し指ではさんで回します。九州地方で現在も遊ばれているコマです。
4. **二つ目コマ（体験用）**… 木製の胴部に、鉄の心棒と輪をはめたコマ。「二つ目」は上部に押した印の数を示し、数が多くなるほどコマも大きくなります。鉄輪を付けることにより、けんかに強くなっています。
5. **鉄コマ（体験用）**… 岐阜周辺でよく遊ばれていたコマ。すべて鉄でできています。



1. ベーゴマ（体験用）



2. バイゴマ



3. バイ貝のひねりごま

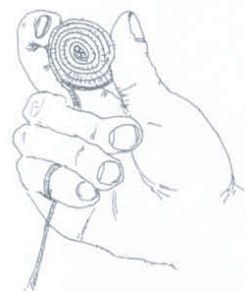
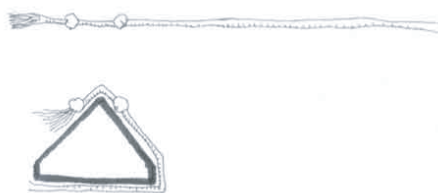


4. 二つ目コマ（体験用）

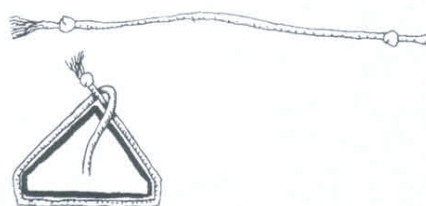


5. 鉄コマ（体験用）

ベーゴマのひもの巻き方と持ち方



A. 女巻き… 二つのひもの結び目のまん中をコマの先端にのせ、上下に一巻きしてから螺旋状に巻く



B. 男巻き… コマの先端から、十字型に上下を巻き螺旋状に巻く

ゴムとび

1. **ゴムなわ（体験用）**…戦前、ゴムとびに使うゴムなわは、子ども達が自転車の古チューブを切って作りました。



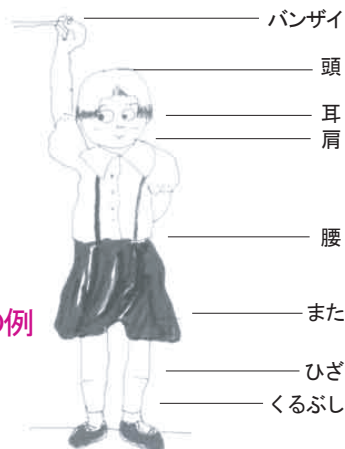
1. ギュムなわ（体験用）

男とび…スピードをつけ、思い切り足を蹴って正面からはさみ跳びをします。



男とび

女とび…ゴムなわの位置が高い場合に成功しやすい方法。片足でひもを押さえながら、反対側の足でタイミング良く越します。



ゴムひもの位置の名前の例



女とび

羽子板

正月の女の子の遊びとしてよく知られた羽子板。その装飾方法は、直接鉛筆で図柄を入れたものや、絹張りにして絵柄を入れたもの、あるいは写真のようなものがあります。現在、実際使用するほとんどのものは印刷です。体験用には白木の羽子板を用意しています。

2. **押し絵羽子板**…厚紙に絹を張り、中に薄く綿を入れた部品を張り付けて人物などを作り、表面を飾ったもの。実際に使用する場合は、裏面で羽根をつきます。

3. **焼き絵羽子板**…図柄の輪郭線を焼いて入れ、彩色した羽子板。



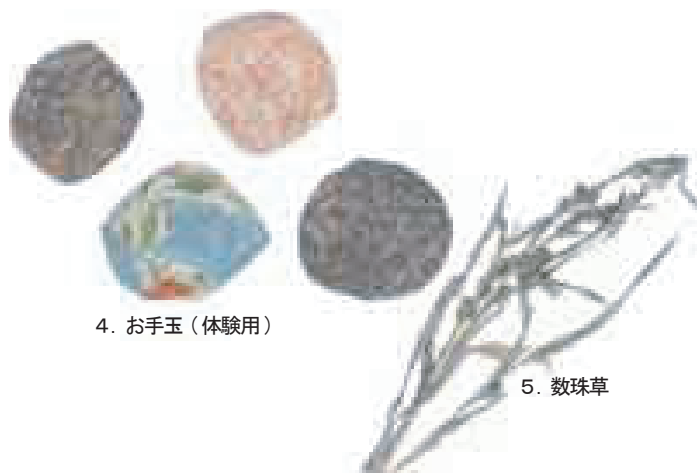
2. 押し絵羽子板

3. 焼き絵羽子板

お手玉

4. **お手玉（体験用）**…古着などの端切れを使ったお手玉。人によって手に馴染む大きさや重さがあるため、針仕事の練習を兼ねて子ども自身で作ることも多かったものです。

5. **数珠草**…イネ科の多年草。湿地によく自生しており、初秋に開花した後、球状の包葉が硬化します。これをじゅず玉と呼び、集めてお手玉の中に入れました。



4. お手玉（体験用）

5. 数珠草

竹ぽっくり

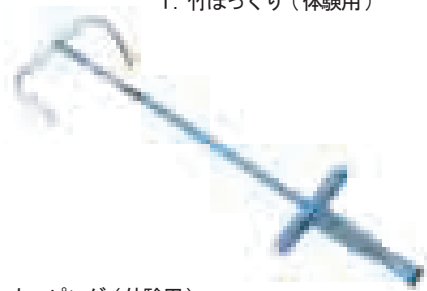
1. 竹ぽっくり（体験用）…太い竹を割り、ひもをつけたもの。大きな空き缶（給食の食材で使うようなものなど）にひもをつけると、缶ぽっくりになります。この場合、缶のまん中にひもを通し、抜け止めにひもの先を結んで作ることもあります。



1. 竹ぽっくり（体験用）

ホッピング

2. ホッピング（体験用）…昭和32年にヒットしたもので、アメリカで美容体操器具として作られたものが原型です。その後昭和55年頃に再び流行しました。子供用。



2. ホッピング（体験用）

鉄砲

3. 紙玉鉄砲（体験用）…竹筒の両側に湿らせた新聞紙などを玉にして詰め、一方から棒を押し込み、圧縮した空気によって反対側から玉を飛び出させます。昔は、紙を口に含んで噛みながら唾液をつけ、鉄砲に詰めて遊んだそうです。



3. 紙玉鉄砲（体験用）

4. どんぐり鉄砲（体験用）…竹筒のまん中にあいた穴にどんぐりを置き、下に出ている弓状の竹を指で押し上げてはじき飛ばします。



4. どんぐり鉄砲（体験用）

竹がえし

5. 竹がえし（体験用）…

- ① 5本の割竹を手の甲に乗せ、ほうりあげると同時に手を返して決めた数の割竹をつかみます。
- ② 5本の割竹を手に握ってほうりあげ、床に置いた反対の手の甲の上に落とします。表裏の色が揃うように、手をゆすりながら順番に割竹を床に落としていきます。



5. 竹がえし（体験用）

遊び方 ②

